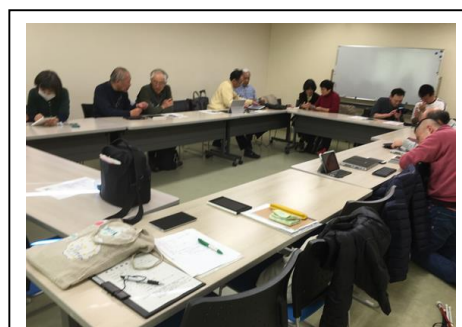


平成27年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	みえない・みえにくい人たちまたその家族・友人等向け ipad 勉強会
事業主体 (連絡先)	障害者パソコン研究会 会長 前野 弘美 メール hmaeno@avis.ne.jp HP http://pasoken.naganoblog.jp/ 携帯電話 080-1043-7315 (出ないときは留守電になりますのでコメントを残してください。)
事業区分	(2)保健・医療・福祉の充実に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	485,040円 (うち支援金: 313,000円)

事業内容

- ・視覚障がい者が ipad、タブレットを生活の中で使えるようにお互い知恵を出し合い勉強会をおこなう。
- ・新聞が読みたい、本を読みたい、音楽を聴きたいメールを送りたい、写真を撮りたい、旅行へ行きたい道案内などやりたいことはたくさんあった。
- ・勉強会で教わったことを実際の自分たちの生活の中で実践していく。
- ・実際に体験したことをみんなの前で発表し、他の人たちにも伝えられる。



【ipad 勉強会中】

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

・視覚障がい者、病気や高齢による弱視の方々も、ipad やタブレットを利用したいという願望が強い。盲学校の先生方も参加されながら勉強会をおこなった。研究熱心な障害者の方々から教わることも多かった。一つ一つ疑問点をクリアしていくこと、そして生活の中に取り入れていく喜びや楽しみを味わってもらう契機となった。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

視覚障がい者が ipad やタブレットを利用したいとき、どこで教わったらいいのか、誰が教えられるかというしくみを作りたいと思う。ボランティアとして視覚障がい者に教えられるスキルも身に着けたいと思う。

次年度は、ipad を視覚障がい者の生活のツールとして紹介をする眼科医を招いて講演会を開催したいと思う。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

【目標・ねらい】

- ①視覚障がい者も ipad を使う。
- ②自分の ipad をもつ。
- ③いろいろなアプリをつかう。
- ④生活の糧になれば。

※自己評価 【 B 】

【理由】

補助金がなくなったとき、勉強会の継続ができるか、とても不安であるため